京都文教中学高等学校・宗教礼拝
礼拝（らいはい）
令和5年11月27日
5号

四弘誓願のうた

「誰か」のことじゃない社会の実現に向けて
（第75回　人権週間12/4～10）

十一月も最終週を迎え、二学期の期末考査がいよいよ目前に迫ってきました。また、十二月四日から十日は人権週間として、さまざまな人権問題の解決に向けた取り組みが行われます。私たち一人一人が人権問題を自分以外の「誰か」のことではなく、自分のこととして捉え互いの人権を尊重し合うことの大切さについて認識を深める機会です。

さて、皆さんは「覚悟」という言葉を聞いてどのようなことを想像するでしょうか。広辞苑で調べてみると、①迷いを去り道理をさとること。②知ること。③記憶すること。④心がまえ。⑤あきらめること。観念すること、とあります。恐らく多くの人は④⑤の意味で考えたのではないでしょうか。もともと「覚悟」という言葉は仏教用語であり、①の意味で用いられていました。ある経典に「仏とは、覚と名づく。既に自ら覚悟し、また能（よ）く他を覚す」と説いてあります。つまり覚悟を得た人を「仏」と尊称するという意味になります。覚悟をすることがどういう意味なのかを知るヒントが「四弘誓願のうた」にあります。

「生きとし生けるものは皆、救い取らすという願い。煩悩（ぼんのう）いかに繁（しげ）くとも、これを断たんという願い。法門（ほうもん）果てしなけれども、学び取らんという願い。仏のみのりいただきて、終（つい）のさとりに至（いた）らん願い。四つの誓いおしなべて、終のさとりに至らん願い。」この歌詞のもとになるお経があり四弘誓願（しぐぜいがん）といいます。

①衆生無辺誓願度（しゅじょうむへんせいがんど）
②煩悩無尽誓願断（ぼんのうむじんせいがんだん）
③法門無量誓願学（ほうもんむりょうせいがんがく）
④仏道無上誓願成（ぶつどうむじょうせいがんじょう）

菩薩（さとりを求める衆生）が、さとりを得ようとする心をおこすとき、最初に立てなければならない四つの誓いを示しています。①生きとし生けるものに限りはないが、可能な限り役に立とうと思います。そのためには、まず自分の心や考え方を整えようと努力します。②しかし世の中には無数の煩悩があり常に私を迷わせます。だから、小さなことでも一つずつそれらの煩悩を断ち切ろうと思います。③煩悩を断ち切るためには正しい方法を知る必要があります。その方法を教えて下さるのが法門（仏の教え）なのです。法門は無数にあるが、一つでも多くの教えを学び理解し行動できるようになりたいと思います。④さとりを得るための道のりは限りなく遠いけれど、毎日の努力を重ね続け、やがては仏のさとりを成就したいと願っています。

四弘誓願の詩句には無辺・無尽・無量・無上という言葉があり、終わりが無いという表現が使われています。これは、私たちの毎日の生活の中には、悩みや迷い、苦しみや悲しみを目の当たりにしなければならないことがあまりにも多いからです。だからこそ、「日々の苦しみから逃げることなく堂々と生きて行こう」という決心が示されているのです。「やがては仏のさとりを成就したい…」のさとりを漢字では「悟り＝煩悩を消すこと、覚り＝煩悩を消して真理に目覚めること」と表すことができます。この二つを合わせると「覚悟」となるのです。四弘誓願のうたを歌うときには、四つの誓願を思い、自分を整える決心をするとともに、すべての人が明るく正しく仲良く生きていける世の中を築いていけるように、可能な限り役に立とうとする「覚悟」を心の中に芽生えさせ、大きく成長させていただきたいと思います。